対談

対話を重視した授業で自ら学習に向かう力を育む

― 新課程での英語教育に向けて ―

新学習指導要領では、４技能を統合的に活用できる能力を育成するために、コミュニケーションを重視した英語の授業の必要性がうたわれている。新課程を機により効果的な指導を実践するための心構えを、教師経験のある研究者と現場の教師に聞いた。

コミュニケーション活動の意義
習得とアウトプットのバランスが学ぶ意欲を育む

編集部　新学習指導要領の英語の中では、コミュニケーションを重視した授業の必要性がうたわれています。そうした授業を行う際のポイントは何でしょうか。

西　私は授業で必ず「英語を使う場面」を設けています。例えば、生徒同士で日常生活について話したり、教材のテーマについて意見を発表したりといった活動です（**図1**）。ただ、「話す」「書く」といったアウトプットの活動は、「伝えたい」ことがあって初めて出来るものです。生徒の様子を見ながら、生徒が話したいと思えるような話題を選んだり、教材への関心を高めるためにイントロダクションで関連する話をしたりといった工夫をしています。具体的にいうと、**図1**の指導案では、トーテムポールを題材としているので、トーテムポールが作られた意義を理解できるように、イントロダクションで言語以外の伝達手段である「写真」の話をしました。

山岡　確かに、言語活動は伝えたいメッセージがなければ成立しません。いくら自分の意見を持つことが大切だといっても、自分とかけ離れたことに対して意見は持ちにくいものです。また、コミュニケーションをしようとする意欲も大切です。西先生の1年生の授業を拝見した際、生徒はけっして高度な英語を話しているわけではありませんでしたが「伝えよう」という意欲に溢れていました。

立命館大 教育開発推進機構教授
中央教育審議会 外国語専門部会委員
山岡憲史
Yamaoka Kenji
滋賀県公立高校で英語教員として教壇に立った後、立命館大に移り、現職。

広島県広島市立舟入高校
西 巌弘
Nishi Itsuhiro
教職歴15年。同校に赴任して10年目。教育研究部。担当教科は英語。平成19年度文部科学大臣優秀教員表彰受賞。

学校プロフィール◎全日制。普通科に国際コミュニケーションコースを設置。２００４年度から３年間、文部科学省のＳＥＬＨ-ｉの指定を受ける。10年度の進路実績（現浪計）◎国公立大は京都大、大阪大、九州大などに１６１人が合格。私立大は、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ５３１人が合格。

西　伝えたいメッセージを持たせるために、教材には徳育的な側面のあるトピックを選ぶのが効果的だと思います。環境問題や情報社会の課題、日常生活に関することなど、生徒が関心のあるトピックならば課題意識を持って教材に取り組めますし、意見も持ちやすくなります。そうすると課題文から情報を読み取ろうという意欲が湧き、英語をもっと理解したいと思うようになるのです。本校は09年度から「全国高校生英語ディベート大会」に参加していますが、教師が何も指示をしなくても、生徒が自分で何をすべきかを考えて準備に取り組む様子が見られます。

山岡　教材に課題意識を見いだせれば、勉強だから仕方ないと取り組んでいたものが、能動的な姿勢に変わり、情報を求めて読むようになります。また、こういう英文表現の仕方もあるんだと気付くようにもなるのです。これを繰り返すことによって、どのような教材でも自発的に読み、学び取ろうという姿勢が身に付くと考えます。

西　学習指導要領にも示されていますが、社会で生きる力、社会で役立つ力を育むためには、教科学習でも課題意識を持ちやすい話題を取り入れ、生徒に考えさせ、更にその考えをアウトプットさせることが必要だと思います。

山岡　言語の習得だけを目標としない授業が、結果的に最も英語の力を伸ばすと考えてもよいのではないでしょうか。

コミュニケーション活動の工夫
誰でも守れるルールを作り生徒の活動を促す

編集部　生徒の意欲を引き出すために、授業の中ではどのような工夫が考えられますか。

山岡　意欲を育むためには、1年生から英語を使う活動をどんどん取り入れることが重要でしょう。3年生になり英作文が大学入試で必要だから勉強させようとしても、伝えたいことがなければ丸暗記するだけになってしまいます。

　高校入学時の生徒の英語力はばらばらですから、活動しやすいように簡単なルールを決めるとよいと思います。中学時代はどのような英語の授業を受けていたか分からないけれども、高校での英語の授業はこういうものだと、体に染

図1　コミュニケーション活動を取り入れた指導案

No.	時間	活動	内容	使用教材	狙い
1	2分	ウォームアップ	ペアで交互にA～Zで始まる英単語を言う。Zまで終わったら座る。		既習の英単語の「ひきだし」を刺激する。これにより、授業中の英語に対する反応が良くなる。
2	8分	2分間チャット	与えられたトピックについて、ペアで2分間会話する。2分経ったら会話を止める。 Do you often take pictures? Yes.→Why? ／ No.→Why not?		レッスンを通じてのテーマ（例:トーテムポール）に触れる。身近な事象と関連・対比できるようにする。 ＊トーテムポールは、文字以外の方法でエピソードを後世に残す役割があるので、写真と関連付ける。
3	2分	オーラル イントロダクション	教師の話を聞く。教師は英語でトピックについて話す。		トピックへの生徒の関心を高める。
4	8分	リスニング コンプリヘンション	CDを聞き、聞き取れた内容をペアで話す。	音声CD	トピックについての内容理解と、英語音声への関心を引き出す。
5	15分	リーディング コンプリヘンション	テキスト本文を読み、QAシートに解答を書く。制限時間は10分。その後、ペアで解答を比べ、正解を確認する。	テキスト QAシート	リスニングでの理解を確認するために行うリーディング活動。明示的な質問で「どの部分に答えるか」だけに注目させる。
6	5分	語彙・表現	テキスト本文を見ながら、語彙・表現の意味と発音を確認する。	テキスト	音声・文字・意味のつながりを深めるための反復練習。次の音読に集中できるよう、語彙表現の音声に対する心理的な抵抗を取り除く。
7	5分	音読	テキスト本文を音読する。	テキスト	内容理解につながる音読活動を行い、英文に親しむ。英文への心理的な抵抗感を取り除く。
8	4分	シャドーイング	❶ 教師がスピードを上げながら音読（または音声CD）するのに合わせて行う。 ❷ ペアで行う。	音声CDなど	音読の到達度を確認する。
9	1分	まとめ	宿題の確認。テキストの練習問題（内容理解問題）と音読を課す。		テキスト本文の内容理解を深め、次の時間の表現活動につながるよう復習する。

＊西先生の資料に基づいてGTEC for STUDENTS編集部で作成

み込ませていきます。「大きな声で話す」「相手の目を見て話す」と誰でも出来ることを決まり事にして、それが守られていればとにかく褒めるのです。ここでは意欲を引き出すことが目的ですから、文法や単語を間違えたとしても、褒めた後で、言い直すための表現方法を教えればよいでしょう。

西　私の授業でも、音読をする時は姿勢を正す、立って発表する時は椅子を机にしまうなどのルールを決めています。英語の活動も最初は型にはめておき、徐々に自由度を増すようにしています。そして、生徒の発言から良いところを見つけて褒める、机間巡視中に良い表現を聞きつけたら最後にみんなの前で発表させるなど、表現することは楽しい、面白いという気持ちが持てるようにしています。

生徒の状況を把握した上で活動させることも心掛けています。体育の後の授業では、生徒の疲労度を見定めて活動を選びます。また、失敗したくない気持ちが強いのに活動させてもうまくいきません。そうした生徒の様子を見ながら、活動内容を選んでいます。

大学入試とコミュニケーション活動
音声、文字、意味を関連付けた活動が英語指導に有効

編集部　授業ではコミュニケーション活動を行う一方で、大学入試合格のための学力を付けることも求められます。

山岡　大学入試でスピーキングや英作文があまり課されないという理由から、コミュニケーション活動はこれまで授業で軽視されがちでした。しかし、学んだことを定着させるためには、アウトプットをさせた方が効果的です。

西　同感です。私は「聞く、話す、読む、書く」のうち「話す」をもっと授業に取り入れてもよいのではないかと思います。言葉は「音声」「文字」「意味」の三つの要素で成り立っています（**図2**）。単語を発音して覚える生徒は多いですし、黙読をしても頭の中で単語を読み上げているはずです。つまり、音声は英語を学ぶ上で重要な役割を果たしています。4技能をバランスよく学んでこそ英語の力が付くと考えます。

山岡　能動的に読む姿勢も重要です。センター試験の長文読解の語数は高校3年間で習う総語彙数の10分の1ほどになります。難関大の入試では一つの課題文で2000語もある問題が出ます。最近では、単純な英文和訳の問題ではなく、趣旨を日本語で要約させる問題や、課題文に対して意見を英文で書かせる問題が目立つようになりました。このような問題に対応するためには、受け身の態度で英文を読むのではなく、主体的に要点をつかんで読む姿勢が不可欠です。一語一語を訳して読み進めるのではなく、能動的に情報を求めて読む訓練が必要です。単語の暗記や和訳の学習も必要ですが、入試に対応する学力を付けるためにも、あまり詳細にこだわらず、スキャニングやスキミングなどで読解力を伸ばすことが重要です。音声、文字、意味のバランスがとれた学習が大切なのです。

図2　言葉の3要素と指導の関係

＊西先生の資料を基に編集部で作成

これからの指導の在り方
今までの指導を振り返り「旧」と「新」を融合させる

編集部　今までの指導をどのように変更すれば、コミュニケーション活動を効果的に取り入れることが出来るのでしょうか。

山岡　コミュニケーションを取り入れた授業というと、今までの指導をすべて変えなければならないと考える先生がいるようですが、それは誤解です。従来の指導にも良い面はたくさんあります。文法の構造をしっかり押さえること

や、単語を覚えることも英語学習には欠かせません。今までの授業の良い面は継承しつつ、今の指導では不十分なこと、すなわち自己表現を見据えたインプットの方法やコミュニケーション能力を伸ばす指導法を模索していくのです。

西　私も、今までと全く違う指導をする必要はないと思います。今、目の前にいる生徒をしっかり見て、足りない力は何か、力をもっと伸ばすために必要な指導は何かを考えて授業をすることこそ大切だと思います。英語は一つの教科を複数の教師が教えますから、教科内で生徒をどう育てたいのかを目線合わせすることも重要です。

山岡　新課程では英語の科目構成が変わるため、授業内容の組み直しも課題となります。「オーラル・コミュニケーション」の科目がなくなりますから、ＡＬＴとのチーム・ティーチングはどの授業で行うのかを話し合う必要がありますし、リーディングやライティングの区分けがなくなりますから、１年生からライティングを取り入れてみたり、文法をリーディングに絡めて指導したりと、これまでとは違う指導の工夫が考えられるはずです。新課程はこれまでの指導を振り返り、今後どのような指導をしていけばよいか、教師間で話し合う良い機会になるでしょう。

指導法改善の考え方
客観的な生徒把握を基に校内での目標を定める

西　目線合わせとして分かりやすいのは、数値目標だと思います。本校の国際コミュニケーションコースでは、卒業までに1分間に75ワードを話せることを目標にしています。

山岡　Can-doリストを作り、技能ごとの到達度を設定することも重要です。大切なのは、生徒把握をしっかり行い、目標を設定することです。

西　以前、勤務校で生徒の家庭学習時間が減っているのではと指摘されたので、2年生の家庭学習時間を調査したところ、前年度の1年生の時よりも増えていました。精一杯努力している生徒に「もっと努力しろ」と言ったら、意欲を削ぐことになりかねません。感覚やイメージではなく、客観的な情報から生徒を把握した指導を考える重要性を痛感しました。

山岡　客観的なデータを指導につなげる方法として、生徒へのアンケートも有効です。例えば、4月に新しい指導を取り入れたら、1学期の終わりにそれに対する評価を生徒に聞き、2学期に改善するのです。

西　私も独自に授業評価アンケートを行っていますが、最初に生徒に授業への取り組み方、予習・復習や授業態度などを自己評価させてから、授業評価をさせる構成にしています。

山岡　生徒に学習姿勢や英語の力の自己評価、授業に取り入れてほしいこと、もっと伸ばしたい力などを聞いてから授業評価をさせることで、教師の生徒把握に役立つだけでなく、生徒が自己を振り返る機会にもすることが出来ます。

西　普通科には多様な学力と意識を持つ生徒が入学してきます。英語の学習がしたいと本コースを選ぶ生徒でも、高校入学時の英語レベルはさまざまです。しかし、多様な学力を持つ生徒たちがいるからこそ「学校」なのですし、ばらばらの学力を一定水準にまで引き上げられるように授業を工夫することが、教師の指導力、ひいては学校全体の指導力を高めるのだと思います。新課程は、学校としてどう指導するのか、目標を見据える良い契機になると思います。

編集部　本日はありがとうございました。